

# 生きている武庫川①

## 武庫川の源流を探る

『武庫川は、丹波篠山を源流にして深く美しい武庫川峡谷を刻んでいます。六甲山の崩壊土砂を多量に生産する太多田川と合流すると、川幅もすだいに広くなり、宝塚市の平野部に出ます。そして逆瀬川、仁川と合流し、西宮市、尼崎市を貫いて、大阪湾に注いでいます。阪神地域はこの武庫川によって産み出された地域です。川はまちの歴史をつくります。武庫川は私たちの「母なる川」といっても過言ではありません。』(西宮市環境学習都市推進課情報掲示板から転載)

## 武庫川の特徴



写真1 武庫川最上流部



←写真2 分水界 (本流が平坦部から発するため分水嶺を持たない)

分水界を境目に、北へは篠山川(加古川水系)、南は武庫川に流れます。水面に葉っぱを浮かべ、その流れから地点を判断します。実際の分水界は、国土地理院地図記載の分水界よりも北方の第一水門と第二水門の間です。分水界をもつ田松川は、篠山川と武庫川を結ぶ川ですが、明治時代に上流が整備され人工水路となりました。



写真3 武庫川起点⇒

田松川と真南条川の合流地点が、武庫川の起点です。

←写真4 起点の石標

両岸に設置されています。「一級河川」と刻印されていますが、正しくは「二級河川」。





写真5 武庫川の源流（主水源）

武庫川の水源は真南条川をさかのぼること、愛宕山の西の谷筋、標高500m余の山中にあります。岩の隙間10cmほどの所からわずかに流れ出る水が、源流の始まりです。

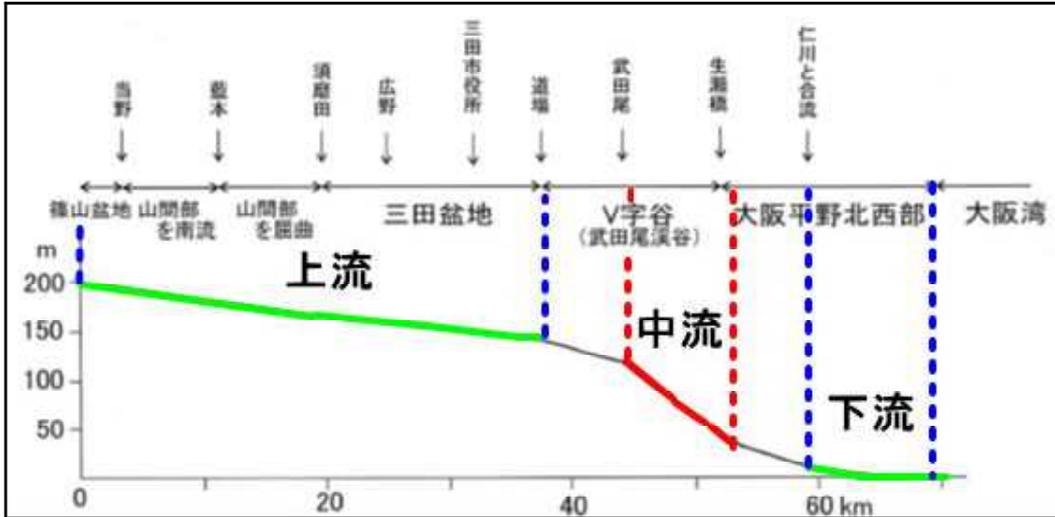


図1 武庫川の河川縦断面  
人と自然特別号2 武庫川  
散歩P14 より転載  
(江崎保男編 人と自然の  
博物館 刊)

上流と下流が平坦(1m当たり僅か1ミリの傾き)全体を通して1m当たりたった3ミリの傾斜。



図2 河川争奪の過程 ①篠山川は元々、武庫川の上流部でした。②武庫川は傾斜が緩く流れが穏やかなため、土砂が堆積して、篠山川の水は南下できなくなりました。水は西側に広がりました。③西にできた流れが、地形を侵食して新たな流路となった結果、武庫川は篠山川に上流部を奪われてしまいました。(参考：武庫川散歩)



写真6 流紋岩溶結凝灰岩（白亜紀 約1億年前）採集 武田尾～名塩付近

火山の噴火によって空中に放出された噴出物が地上に降下した後に、噴出物自身が持つ熱と重量によってその一部が 溶融し圧縮されてできた凝灰岩の一種。大昔は火山活動がさかんであったことを示します。 武庫川中流付近の河原にこの石を見かけます。ここから以西の中国山地に広く分布します。白っぽい結晶はカリ長石や石英、緑色の結晶は輝石。丸くなったのは川の流れの働きで削られた結果です。



写真7 泥岩(ジュラ紀～二畳紀 約2億年前) 採集 武庫川起点 南矢代付近 丹波層群

日本列島ができる前に深海に堆積した泥が固まってできた岩で、兵庫県の岩石ではかなり古い部類に属します。海底の岩や石が産出するという事は、隆起などの地殻変動があったことを示します。

黙々と流れる川の水、途切れなく流れる川の水、太古から流れる川の水…私たちの目には変わらないようでも、川は様々な生き様を経て今日も流れています。そんな川の生き様を色々な視野、角度から次号も探っていきたいと思います。

備考:写真1は、グーグルマップをもとに加筆作成。写真2～7は、現地撮影。図2については、「武庫川散歩」の文献を参考に作成。